

令和6年6月新見市議会定例会
日程第4（市長の行政報告について）

市長行政報告

本日、6月市議会定例会を招集いたしましたところ、皆様方にはご多用の中ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

まず、4月16日の夕方に発生したひょうは、市内的一部地域で住宅や倉庫、農作物や農業用施設にも被害を及ぼしました。突然のひょうの被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

本市では、今回のような突発的な自然災害による被害に対し、高梁市、真庭市と合同で、国や県に農業者への支援策などについて要望活動を実施いたしました。

また、家屋などが破損した方に対して、保険申請などに必要な被災証明書の発行も引き続き行っているところであります。

次に、JR新見駅の「みどりの窓口」が閉鎖され、「みどりの券売機プラス」が設置されたことについてであります。券売機を利用された方から「使い方が分かりにくい」などのご意見をいただいたことを受け、4月19日にJR西日本岡山支社長に対して、その改善について要望を行いました。

その結果、4月23日に「駅員呼び出しボタン」を設置していただいております。このボタンを押すことにより、駅員による操作説明や操作補助を対面で行っていただけますので、皆様が不安なく利用できるよう改善されたと考えております。

今後もJR西日本と協力し、利便性向上を図りながら利用促進に努めてまいります。

次に、出水期に入り、集中豪雨などによる洪水が起きやすい時期となりました。皆様におかれましては、日頃から身のまわりの危険な箇所を確認していただくとともに、災害発生時には、気象庁や市が発表する情報に注意していただきますようお願いいたします。本市といたしましても、避難所の開設訓練などを行い、災害が発生した場合、即座に対応できるよう備えているところであります。

それでは、前回市議会定例会以降の取組等について、報告をさせていただきます。

まず、「産業・経済」についてであります。

岡山県では57年ぶりとなる第74回全国植樹祭が5月26日に岡山市のジップ

アリーナ岡山を主会場として開催され、私も出席いたしました。当日の式典で皇后陛下が、地域固有種であり本市の花として指定されている「アテツマンサク」をお手植えされたことは非常に喜ばしいことと思っております。

本市の特産品であり、市内で生産された「リンドウ」のプランターも設置され、会場に彩を添えておりました。

また、全国植樹祭に合わせて発行されたフレーム切手には、本市の「親子孫水車」が採用されるなど、全国に本市のPRができたと感じております。

秋には大佐山大日高原において、アフターアイベントも計画されており、開催理念に掲げられている「豊富な森林資源の循環利用」を進めるとともに、森林の持つ公益的機能の確保に引き続き努めてまいります。

有害鳥獣による農作物被害への対策につきましては、令和5年度も電気柵などの被害防止柵の設置や動物駆逐用煙火による「被害防除」と、有害鳥獣駆除班の協力のもと、ICTを活用した遠隔監視・自動捕獲システムの導入などによる「有害捕獲」にも積極的に取り組んでまいりました。

こうした取組もあり、令和5年1月から12月末までの農作物への被害額は1,088万2千円となり、前年の1,127万5千円から減少しております。引き続き「被害防除」と「有害捕獲」の両面から、鳥獣被害の防止対策に取り組んでまいります。

森林情報のデジタル化につきましては、令和5年度に構築いたしました「新見市森林管理用GISシステム」をはじめとする森林ICTプラットフォームの運用を4月から開始しております。

本年度から実施する森林境界明確化事業の成果や県から情報提供いただいた樹種などの詳細データを順次搭載し、森林情報のデジタル化を推進するとともに、積極的に公開することで、森林管理や森林整備につなげてまいります。

「新見市オリジナルICOCA」につきましては、5月末現在、市民の皆様の88%がカードを保有しております。

市内加盟店106店舗において、これまで付与した「にーみんポイント」の85%、約4億6百万円分のポイントが利用され、電子マネーの利用も、約3億5千4百万円となっており、市内経済の活性化が図られているものと考えております。

現在、府内に設置した「ICOCAを活用した地域活性化ワーキングチーム」からの提案に基づき、登録加盟店の増加を目的としたキャッシュレス決済端末を新規導入する事業者への支援のほか、啓発資材を積極的に活用したPR、モバイルICOCAへの乗り換え対応事業を開始しております。

また、地域の集まりや高齢者サロン、公民館活動などにあわせて、利活用方法などが学べる「出前講座」を開催することで、高齢者などの利用促進につなげてまいります。

引き続き、市民の皆様の利便性向上と加盟店の増加を図りながら、キャッシュレス化の推進と市内経済の好循環に向けて取り組んでまいります。

観光振興の分野につきましては、山陽新聞社など西日本の地方紙6社が連携して取り組む「ふるさとの光発見プロジェクト」第1弾の舞台に本市が選ばれました。これは、地域の資源を「光」と位置づけ、その魅力を発掘し、発信する取組で、「山田方谷ゆかりの地」や「井倉洞」、「千屋牛」、「星空」など15件が選定されております。

これらのコンテンツは、旅のプランとして「ローカルフード」、「自然」、「歴史」の3つのテーマに分類され、現在、山陽新聞ホームページや本市公式観光サイト「えーとこ新見」で公開しております。今後、これらのプランを実際に巡る特集記事が、7月上旬から、地方6紙の朝刊に順次掲載される予定となっております。

また、9月28日から11月24日にかけて県北12市町村で開催される「森の芸術祭 晴れの国・岡山」では、「満奇洞」に加えて、新たに「井倉洞」が作品展示会場に選定されました。この機会を好機と捉え、芸術祭のアート作品と市内の文化・芸術・歴史などの観光施設をめぐるバスツアーを企画し、千屋牛などのA級グルメ食材を提供することとしております。

これらの取組により、本市の観光資源を広く情報発信することで、ターゲットとする関西エリアからの観光客や外国人の誘客を促進し、観光消費の拡大、交流人口の増加につなげてまいりたいと考えております。

雇用の確保につきましては、市内企業に就職する新卒者やI J Uターン者に対する奨励ポイントを付与する制度を開始しており、5月末現在33名の申請を受理しております。市内中学校や高等学校、新見公立大学のほか、商工団体を通じて各事業所への周知を行っております。

次に、「健康・福祉」についてであります。

健康増進施設「げんき広場にいみ」につきましては、施設の改修工事が完了し、リニューアルイベントとして、6月1日に2012年ロンドンオリンピックの銅メダリストで、現在はミズノ株式会社スイムチームコーチの寺川綾氏によるトークショーと水泳教室を開催いたしました。

水泳教室には、93人の参加があり、メダリストから直接指導を受けるという貴重な機会となりました。

お子さんからご高齢の方まで、生涯にわたり健康増進を図れる施設として、引き続き利用促進に取り組んでまいります。

子育て支援につきましては、「こどもまんなか応援サポーター宣言」の趣旨を踏まえ、多様化する子育て環境に対応するため、入所要件を満たさない世帯の児童であっても通園できるよう、4月から新見市版「こども誰でも通園制度」事業をスタートい

たしました。多様なライフスタイルに対応し、子どもたちが健やかで幸せに成長できるよう子育て環境の充実に努めてまいります。

令和5年度住民税の均等割のみ課される世帯を対象とした、物価高騰重点支援給付金10万円につきましては、5月末現在、755世帯、7,550万円の支給を完了しております。また、こども一人当たり5万円を給付する「こども加算」につきましても、25世帯のこども53人分、265万円の支給を完了しております。

なお、令和6年度、新たに住民税非課税となった世帯及び均等割のみ課される世帯への給付金につきましては、システム改修などの準備が整い次第、該当世帯へ案内をお送りいたします。

次に、「教育・文化・スポーツ」についてであります。

大佐中学校区で進めております、施設一体型の小中一貫校整備事業につきましては、4月に現地説明会を実施し、6月28日には、応募のあった設計業者5社の中から、プロポーザル方式により選定を行うこととしております。引き続き、令和9年春の開校を目指し、着実に進めてまいります。

次に、「安全・生活基盤」についてであります。

新たな防災拠点として整備を進めております市役所本庁舎附属棟につきましては、令和5年度で西棟の解体工事や附属棟の実施設計が完了し、6月12日に附属棟の建築・機械設備・電気設備の工事入札を行ったところであります。

本年度末の完成を目指してまいります。

次に、「都市基盤・交通」についてであります。

市道小学校金谷線のかなや橋歩道橋整備につきましては、3月に下部工の橋台が完成いたしました。歩道部分となる上部工につきましても、2月に工事発注しており、本年度末の完成を目指してまいります。

芸備線再構築協議会につきましては、3月26日に広島市で第1回協議会が開催されました。

議長である中国運輸局長から「廃止ありき」「存続ありき」という前提を置くことなく、具体的なファクトとデータに基づき、3年を目安に再構築方針を作成することが示されました。

本市から、JR西日本に対しては、引き続き運行を担っていただくことを、国に対しては、全国的な鉄道ネットワークの方向性など議論の基盤となる考え方を示すことを求めたところであります。

また、5月16日には、再構築協議会の下部組織となる幹事会が行われ、芸備線の可能性を最大限追求するための調査事業などを行っていくことが決定されました。

引き続き、秋頃に予定されております、第2回協議会などの場において、持続可能な交通体系の構築に向けた議論を進めてまいりたいと考えております。

次に、「環境」についてであります。

脱炭素社会の実現に向けた取組につきましては、P P A事業として馬塚浄水場と新見浄化センターの2施設に太陽光発電設備の導入を行い、4月1日から太陽光による給電が開始されました。また、この電力を活用した電気自動車用超急速充電器も4月22日から利用できるようになりました。引き続き、公共施設への太陽光発電設備の導入や、電気自動車用の充電環境の整備などにより、二酸化炭素の排出抑制を図り、2030年ゼロカーボンシティの実現につなげてまいります。

次に、「交流・コミュニティ」についてであります。

令和5年度のふるさと納税につきましては、広報などの強化により、目標を上回る1億3,253万円のご寄附をいただくことができました。引き続き、返礼品の充実、効果的な広報などにより、ふるさと納税を契機とした地域の魅力を発信してまいります。

地域運営組織につきましては、令和5年度に活動拠点として新築整備しておりました、唐松地域づくりセンターが3月末に完成し、4月1日から利用を開始しております。

また、本年度は6月18日に西方地域で、6月23日には石蟹地域において、新たな組織の設立総会が予定されております。

引き続き、地域運営組織の設立やその活動のための支援を行ってまいります。

国際交流につきましては、5月12日から17日にかけて、昨年10月に友好姉妹都市縁組締結25周年を迎えた、アメリカ ニューパルツヴィレッジを訪問いたしました。

訪問先では、ニューパルツヴィレッジのティム・ロジャース市長やグラット一教育長、国際交流協会のベラ会長などとの面会を行い、今後の交流について意見を交わしました。特に、ミドルスクールやハイスクール、ニューヨーク州立大学ニューパルツ校を訪問した際には、相互交流の再開や、市内の高校との姉妹校締結に向けた提案を行いました。

また、記念植樹の実施や、「友好関係確認書」に署名を行うなど、これまで培ってきた友好関係を今後も継続していくことを互いに確認いたしました。

こうした現地での交流の状況を広く周知するため、6月4日に帰国報告会を行ったところであります。

次に、「広聴・広報」についてであります。

広聴・広報につきましては、2月27日に豊永支え合いネット、5月1日に社会福祉法人愛誠会、5月23日に新見ロータリークラブの皆様と市政懇談会「おでかけ市長室」を開催いたしました。

観光や地域産業、小児科の夜間・休日診療、また、市の自然保護活動や地域経済の活性化などについてご意見ご提言をいただき、有意義な懇談会が実施できました。

この貴重なご意見を今後の施策の参考にしてまいりたいと考えております。

以上、市政運営の状況につきまして主なものをご報告いたしましたが、引き続き市政の推進にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。